

様式第1号

兵庫県福祉サービス第三者評価の結果

① 第三者評価機関名

一般財団法人 大阪保育運動センター

② 施設・事業所情報

名称：日野の森こども園	種別：保育所（幼保連携型認定こども園）
代表者氏名：園長 瀧 薫	定員（利用人数）：110名（123名）
所在地：〒663-8022 兵庫県西宮市日野町18番71号	
TEL 0798-64-7560	ホームページ： http://www.nintenkai.net/
【施設・事業所の概要】幼保連携型認定こども園	
開設年月日：平成26年4月1日保育園開設（平成28年幼保連携認定こども園へ移行）	
経営法人・設置主体（法人名）：社会福祉法人（任天堂会）	
職員数	常勤職員： 19名 非常勤職員： 12名
専門職員	（専門職の名称）
	保育教諭 31名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	保育室6 遊戯室1 職員室1 等 電機錠設備 プロジェクター設備 等

③ 理念・基本方針

<p>理念「全てに対して誠実に、粘り強く、一生懸命に」</p> <p>教育・基本方針「一人ひとりの子どもを大切に、心身ともに健康な子どもを育てます」</p> <p>教育・保育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく見て、よく聴いて、よく考える子ども（主体的に行動できるこども） ・自分のことは自分でできる子ども（基本的な生活習慣が身についた子ども） ・人とかかわる力のある子ども（自発性のある子ども） ・思いやりのある気持ちや感謝できる子ども（関係性が築ける子ども）

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>① ゆるやかな育児担当制（担当職員がいることで落ち着き愛着関係を基に安定した生活が送れる）</p> <p>② 創造豊かなごっこあそび（子ども達の「やりたい」を実現し自主性を育む）</p> <p>③ 一人ひとりを大切に、それぞれの想いを受け止め安心して居ることができる環境</p>
--

④ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 28年10月21日（契約日）～ 平成29年3月11日（評価結果確定日）
受審回数 （前回の受審時期）	初回（平成 年度）

⑥総評

- ※ 当評価機関は独自に在園児保護者アンケートを実施し、評価の参考にしています。
- ※ 全国社会福祉協議会の評価基準ガイドライン改定に伴って、兵庫県の評価基準も2016年度から改定されました。評価項目ごとの「a・b・c」の評価は、兵庫県の評価基準と判断基準に従っています。
 - 「a」判断基準（取組）を全て実施している
 - 「b」判断基準（取組）の一部を実施している
 - 「c」判断基準（取組）のいずれも実施していない

日野の森こども園は2014年（平成26年）に保育園として設立し、2016年（平成28年）から幼保連携型認定こども園に移行し、今年開園3年目です。真新しい園舎で子どもたちは落ち着いて過ごしています。

◇特に評価の高い点

乳児（0歳～2歳）保育では緩やかな担当制を導入し、いつも同じ職員が子どもに対応できるようにし、子どもの安心感を高める保育をしています。標準的保育の指標として、育児マニュアルを設定し、園内研修で映像を活用し、園長・副園長が丁寧に保育の指導をしています。

幼児（3歳～5歳）は異年齢グループを構成し保育を行っています。養護と教育を一体的に行う指導計画のもとで準備された絵本や遊具で、子どもはそれぞれ遊びのコーナーを選んで過ごしています。日課の中には年齢別の課業の時間も設定し、子ども一人ひとりの興味関心を見守り支えながら発達を促す保育を実施しています。

園長は保育という仕事の尊さと喜びを絶えず職員に語りかけ信頼を寄せています。職員からも保育の悩みを園長、副園長、リーダー職員に相談できてとても働きやすいとの声が聞かれ、年次有給休暇の取得率も高く、離職者が少ないという職場環境は今後の発展の土台となります。

◇改善を求められる点

子どもの生活の中で重要な位置を占め、楽しみな時間である給食環境の充実を望みます。3・4・5歳児は11時から年齢ごとに時間差をつくりランチルームで食べていますが、最後の子どもは12時～12時30分になり、雨天の場合屋上園庭で遊べないので、給食を食べているすぐそばで遊んで待ちます。また職員のみ（食事介助の職員以外）別テーブルで食べる環境設定も検討を望みます。さらにアレルギー児を含む配慮を必要とする子どもの食事介助についてもいっそうの工夫が必要です。

0歳児クラスではゆるやかな担当制を採用した保育で、離乳食など食べる行為の介助は細かく丁寧に指導案に記載されていますが、眠くなってくる子どもや、同じ部屋の給食の美味しい匂いに食欲をそられる子どももいることでしょう。そのような場合は園が大事にしている保育方法を活かしながら職員連携などで、食べること、眠ること、遊ぶことが矛盾なく営め、楽しい雰囲気となる保育環境のあり方の工夫を望みます。

また、保護者の園への高い関心（当評価機関実施アンケート回収率82%）を生かし、いっそう相互理解を深め、保護者と一緒に園運営の発展を築かれることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園3年目を迎え、今回はじめての第三者評価を受けることで、あらためて保育内容を職員全体でふりかえるよい機会となりました。書式類も大変ていねいに目を通していただきました。2日間にわたる保育施設見学においても本園の特色を尊重していただきつつ、専門的な視点でご指摘をいただくことができました。私たちは子どもたちの最善の利益のため日々努力と研鑽を重ねているところですが、今回客観的な視点でご指摘いただきましたことは、大変貴重で真摯に受け止めスピード感をもって対処してまいります。また、高評価をいただきました点につきましては、職員の意欲につなげつつ謙虚に受け止め、さらなる向上のため邁進してまいります。

⑧各評価項目に係る第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果

※すべての評価細目について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・(b)・c
<コメント> 理念や基本方針は法人・園のホームページやリーフにもわかりやすく記載しており、職員・保護者への周知にも努力していることが、書類や管理者ヒアリングでも確認できました。職員に対しては園内研修などを通じて取り組んでいますが開園3年目であり、今後さらに深く理解し子どもに対する具体的対応に活かせるよう、周知における一層の工夫と努力を期待します。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	(a)・b・c
<コメント> 法人は計画的に事業拡大し「子ども・子育て支援新制度」への対応など、事業環境と経営状況を把握・分析する努力をしています。当園は幼・保連携認定子ども園への移行初年度です。「新制度」における公的財政保障での流動的な要素もあり、経営状況などの的確な把握・分析上での一定の困難さも認識して対応しています。		
③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・(b)・c
<コメント> 法人は将来にわたる事業拡大など課題を明確にしています。法人の理念に基づく具体的な事業拡大において欠かすことの出来ない職員の確保・養成、その専門性の向上と担保については、全国的な保育教諭不足問題もあり、方針にそった具体的な取り組みが今後の課題です。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・(b)・c
<コメント> 法人はビジョンをもっており、中・長期計画も策定しています。その内容において、事業目標や収支計画等の充実が求められます。		
⑤	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・(b)・c
<コメント> 現状の中・長期計画を踏まえ、単年度事業計画も重点項目で策定しています。今後中・長期計画の充実で単年度計画への連動を期待します。		

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	(a)・b・c
<コメント> 事業計画の策定や実施と評価見直しが組織的に行われていることは、事業報告の記述や園独自の自己評価の記録等からも確認できました。職員の参画についても法人も園もたえず職員の意見を聞く姿勢を持っており、必要な意見聴取も行い、理解についても文書類はすべて回覧捺印するなど周知を図っています。		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・(b)・c
<コメント> 保護者への周知は重要事項説明書の中にも必要事項は記述しており、説明会などで、理解を促す努力をしています。しかし当評価機関が実施した保護者アンケートでは年間を通じての園の取り組みなどへ要望等も出されており、今後さらに相互理解が深まることを期待します。		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	(a)・b・c
<コメント> 園内研修で課題を明らかにし、全体会議（職員会議や総括会議）で共有しています。考課制度を取り入れ、一次評価者、二次評価者を決めて評価を行っているなど取り組みが組織的に行われています。		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	(a)・b・c
<コメント> 園独自の自己評価シートには、評価項目ごとに、評価と課題が明記されています。その改善への取り組みは、全体会議・クラス会議で共有し、事案が発生した時はその都度園長・副園長・主管で相談し、常勤者は時間内ミーティングで共有し、パート職員への周知のためにミーティングノートも常備され全員が確認押印しているなど改善に努力している様子が伺えます。		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	(a)・b・c
<コメント> 法人では園長及び職員の職務について細かく規程し明確に文書化しています。園長は就任にあたって、また、会議をはじめ、日常的に職員に自らの役割と責任を熱く語り、園だよりや行事の際にも表明し、理解を図る努力をしています。		

11	II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<p>〈コメント〉</p> <p>園長は必要な各種研修会に参加しています。2014年開園から2016年幼保連携認定こども園移行と、この間毎年のように遵守すべき法令が変化していますが、法人本部がその都度適切に必要な情報を提供しています。園長も法人本部と連携し法令等を理解するための努力をしています。</p>		
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	II-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	Ⓐ・b・c
<p>〈コメント〉</p> <p>園長は絵本や玩具などへの造詣が深く、その専門性も生かしながら、何よりも子どもを第一と考え、保育の質の向上に強い意欲をもち、実際に保育する職員が専門職として仕事に誇りと喜びが持てるように絶えず働きかけ、相談にもものっています。同様に保護者の動向にも心を寄せています。今回の第三者評価受審も職員が「保育の質の向上」への取り組みと積極的に受け止められるよう指導力を発揮し、職員と共に誠実に頑張る姿勢を貫くなど、大変努力しています。</p>		
13	II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・Ⓑ・c
<p>〈コメント〉</p> <p>経営については基本的に法人本部が取り組んでおり、園長は与えられた権限の中で努力しています。今後いっそう園内管理者の集団形成によって、取り組みの充実を期待します。</p>		

II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	Ⓐ・b・c
<p>〈コメント〉</p> <p>法人本部と園とで連携し年間を通して計画的に採用フェアや養成校への働きかけを行い、人材確保に努めています。また要配慮児に対応する職員の養成なども西宮市の「未来センター」(障がい児通園施設併設の相談機関)と連携して取り組みを実施しています。</p>		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	Ⓐ・b・c
<p>〈コメント〉</p> <p>理念・基本方針に基づき、期待する職員像を明確にし、事業報告などでも具体的に記述しています。人事考課規程やキャリアパスも策定しており、職員の人事管理においても管理者からの聞き取りや個人面談を通じて、総合的な取り組みに努力しています。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	Ⓐ・b・c
<p>〈コメント〉</p> <p>職員ヒアリングでは他の法人・施設から再就職した職員も、新卒の職員もいずれも、「上司や同僚と相談がしやすい、休暇も気兼ねなく取れる、これからもこの職場で働き続けたい」と語っており、管理者ヒアリングでも「何よりも職員が働き続けて保育を積み上げてほしい」と願っていることがわかり、就業にも配慮していることが伺えました。</p>		

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・(b)・c
<コメント> 職員は園内の乳児研修・幼児研修に参加し、研修報告も提出しており、研修の位置づけが確立していることはヒアリングや書類でも確認できました。開園3年目ということもあり、職員一人ひとりの育成については、個別研修計画の策定などは今後の課題となっています。		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	(a)・b・c
<コメント> 法人・園として職員の教育・研修に対する考え方は初任者・中堅者など事業計画や事業報告でも明記し、法人研修・園内研修を実施しています。また、キャリアパスでも必要な研修について明記しています。		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・(b)・c
<コメント> 法人内・園内研修は実施し、外部の研修への参加も奨励しています。職員への研修予算の提示や、自主研修の保障、また職員の自覚を促す取り組みなどを含めて今後の充実に期待します。		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	(a)・b・c
<コメント> 実習マニュアルに基づき、実習生を受け入れ、本人の希望も取り入れて実習プログラムを策定し実施しています。実習校の指導教官来園時に進捗状況及び成果と課題について話し合いプログラムにも反映しています。		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	(a)・b・c
<コメント> 法人・園のホームページで園の教育理念や保育内容を載せ、財務諸表も掲載の予定です。理事会理事録なども大変詳細なものが存在し、今回の第三者評価受審に際しても、評価機関が閲覧を求める各種書類はすべて提示し誠実な対応で、運営の透明性に努力しています。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・(b)・c
<コメント> 外部監査は未実施ですが、人事考課規程、キャリアパス、賃金表なども整備しており、必要な開示請求にも対応し公正かつ透明性の高い経営・運営に努力していることは伺えます。		

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・(b)・c
<コメント> 子どもたちは日野の森公園へでかけ、宮司さんと関わりをもつなど、地域との交流に取り組み始めていますが、さらに地域の特性もいかした交流を期待します。		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・(b)・c
<コメント> 法人としてはボランティアに対する基本姿勢は持っていますが、園としてはまだこれからの課題となっています。		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	(a)・b・c
<コメント> 職員・保護者に地域の社会資源を職員室での掲示や園だよりで随時知らせ、西宮市が行政として行っている保・幼・小連携の取り組みや、保健所の巡回指導にも参加し、「未来センター」との交流等、関係機関との連携は適切に行われています。		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a・(b)・c
<コメント> 園文庫を週1回、地域へ開放するなどの取り組みは行っていますが、開園3年目であり、一事保育室の活用などは来年以降の課題となっています。今後園の特徴と機能を地域へ積極的に還元する取り組みに期待します。		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・(b)・c
<コメント> 地域に対して子育て相談等を随時実施するなど、公益的的事业や活動に努力しています。地域の民生委員・児童委員との連携やさらに地域の特性に見合う事業や活動について、今後の充実に期待します。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・(b)・c
<コメント> 「一人ひとりの子どもを大切にし、心身ともに健康な子どもを育てます」を方針にし、職員研修などで園長がレクチャーを行い周知を図っています。保護者には、園生活のしおりで丁寧な対応で周知しています。子どもの人権への取り組みは、保護者にも理解を図る取り組みを期待します		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・(b)・c
<コメント> 行政の研修や保健師の指導を受けて、虐待児の受け入れなどは丁寧な対応を行っています。「不適切な事案が発生した場合の対応方法」など幅広い視点での、園独自のマニュアルの作成を求めます。		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	(a)・b・c
<コメント> 施設の紹介資料は、公共施設に置き積極的に情報を提供しています。見学も随時受け入れて時間をかけ丁寧に情報提供をしています。		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	(a)・b・c
<コメント> 入園に際してや、幼・保連携認定こども園への移行なども保護者に分かりやすい資料で説明し、確認内容を書面で残しています。配慮が必要な保護者には、個別対応もを行っています。		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・(b)・c
<コメント> 引き継ぎは、保健師を通して継続性に配慮した情報は提供しています。口頭での引き継ぎに止まっていますので、今後は文章での引き継ぎや、終了した家庭への子育て支援の継続などについても、文書で伝えるなど丁寧な取り組みを期待します。		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・(b)・c
<コメント> 「利用者満足の向上は、とても大切にしています。」と園長が言われる通り、懇談会や保育参観の時にアンケートを取り、職員間で検討し改善した点は、園だよりで知らせるなどの、きめ細かい取り組みがされていました。当評価機関が独自に取り組んだ、保護者アンケートでは、「改善がみられない」などの意見があり、保護者との相互理解へ更なる取り組みを望みます。		

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 苦情解決の体制について、保護者に配布している「園生活のしおり」に記載し、玄関に掲示しています。出された意見に対しての改善策を明記し園だよりで、保護者に知らせています。		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	Ⓐ・b・c
<コメント> しおりや園だよりなどで、相談・意見への対応について保護者に周知しています。相談がしやすい環境作りとしては、一時保育室を活用しカーテンなどでプライバシーについても配慮した部屋も用意しています。		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・Ⓑ・c
<コメント> 苦情対応規定を整備し、アンケートや懇談などで意見を積極的に把握する姿勢は伺えました。保護者からの意見については、担当者からミーティングなどで、職員に周知するシステムがあります。当評価機関が実施した保護者アンケートには「迅速に対応してほしい」などの意見もあり、今後取り組みの工夫などを期待します。		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 危機管理マニュアルが整備され、対応手順を明記していました。ミーティングや職員会議で、ヒヤリハットを集約、検証し保育の中での安全チェックや見直し作業を行い職員に周知しています。		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 感染症マニュアルが整備され、行政の保健師の指導で研修も丁寧に行われています。嘔吐物処理グッズなども準備しており、適切に行っていることを確認しました。感染症が発生した場合は、掲示して保護者に知らせています。		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に 行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 危機管理マニュアルに沿って、防災計画が設定され避難訓練や火災訓練が行われ、実施後の検証も行われています。食材の備蓄や避難時の持ち出しグッズや幼児のヘルメットなども用意しています。		
40	Ⅲ-1-(5)-④ 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 給食の委託業者とも連携し、衛生管理マニュアル・食中毒を含む危機管理対応マニュアルを		

<p>整備しています。委託業者との給食会議が毎月定期的に行われ、会議の内容は職員会議にも知らされています。</p>		
41	<p>Ⅲ-1-(5)-⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。</p>	<p>㉠・b・c</p>
<p><コメント> マニュアルも整備され、マニュアルに基づいた訓練も実施しています。事務所には、緊急連絡も張り出されており、職員にも周知されています。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
42	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>標準的な実施方法として、育児マニュアルが整備され、それに基づいて園長や現場職員により研修や指導も行われています。月に一度乳児研修により、職員同士の意見交換も行われていました。開所より3年の蓄積もしてきているので、さまざまな実践を交流し、日々の保育を検証し合う取り組みを期待します。</p>		
43	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>検証シートを活用し、行事などの見直しは積極的に行われていますが、標準的な実施方法については、職員や保護者からの意見や提案を反映する仕組みのさらなる充実を期待します。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
44	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>入園に際して面接表に沿って個々の状況や家庭の状況を把握し計画を作成しています。評価票で子どもの姿を確認し月案を作成するシステムを確立しています。</p>		
45	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>個々のきめ細かい評価票に基づいての実践を行うシステムは確立しています。乳児は特に個々の食事や排せつの要求が成長により変化するので、変化を把握し常に計画を見直す視点や仕組みを持ち、さらなる保育の質の向上を期待します。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
46	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>園が作成したフォーマットで記録しており、職員間での標準化や共有化を図っています。記録の内容が、子どもが行動する状況の記録に留まっているので、次への保育の展開が見える記録を望みます。</p>		
47	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>個人情報保護規定により、記録管理責任者を置き管理しています。保護者には、重要事項説明書に記載し同意書で確認しています。職員には、研修で学習指導し誓約書で確認しています</p>		

評価対象A 実施する福祉サービスの内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・(b)・c
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	(a)・b・c
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	(a)・b・c
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	(a)・b・c
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	(a)・b・c
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・(b)・c
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・(b)・c
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・(b)・c
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・(b)・c
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	(a)・b・c
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	a・(b)・c
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・(b)・c
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・(b)・c

特記事項

保育課程は養護と教育それぞれの事項について具体的に明示し策定しています。子どもの発達過程は3歳未満と3歳以上のおおくりで明記していますが、子どもの家庭状況や保育時間、地域の実態などを考慮した記述の充実が求められます。また保育園の社会的責任を職員間で共有する上で、さらに職員参画での保育課程編成の充実を望みます。

環境を通して行う保育については、ゆるやかな担当制を実施し、個々の子どもの生活リズムに合わせた援助を行い、基本的な生活習慣を身に着けることなどを重要視しています。子どもの気持ちを受けとめ、言葉かけもおだやかで、絵本や玩具なども子どもの手の届くところに備えています。

3歳以上の保育については異年齢のグループを構成し保育しています。ごっこあそびを中心とした活動で、時間を区切って年齢別保育も取り入れ、年齢ごとの課題にも取り組んでいます。

訪問調査時に4・5歳児が共同で運動遊びをしている時、トラブルを子ども達の手で解決している姿を観察しました。異年齢保育の積極面として評価できるものです。その子どもの行動を保育者が認め、子ども達の中に広げていく、保育者の目的意識的な働きかけなども、集団をまとめる方向には必要な視点になるのではと考えます。

障害がある子どもの保育については職員の研修を行い、他機関との連携もとり、信頼できる保育者が子どもの状況を見ながら活動に入っていけるよう配慮し、子どもの活動の経験を増やしています。月案には支援が必要な子どもの配慮事項は記載していますが、個別指導計画の策定が急がれます。

長時間保育については子どもたちの安心感や安定性の点で、職員のシフト体制も6か月は固定し、同じ職員で対応できるように努力しています。子どもの一日の生活を見通しその連続性に配慮した指導計画策定などの工夫が望まれます。

就学を見通した保育は秋以降の生活リズムづくりや、年度末には時間割に沿った活動を行い、小学校教師が園へ出向いてくれるとの交流や入学体験会などさまざまな取り組みをしています。さらに指導計画に、必要事項の記載を望みます。

子どもの健康管理においてはマニュアルもあり、保護者との連携も健康調査票等を通じて行っています。さらに園独自の保健計画の策定や、乳幼児突然症候群（SIDS）に関して保護者との共通理解を深める取り組みなどを期待します。

アレルギー疾患を持つ子どもに対し、除去食や誤食の対応には努力しています。一方で同じクラスの子供達もトレーを別にして食べることが理解できていない状況が見受けられました。子どもや保護者の理解を深める取り組みをいっそう進めることを期待します。

一日の保育園生活のなかで給食は子どもたちにとって楽しい時間空間でもあります。保育者と共に食べながら会話することによって、さらに充実した時間になります。また、食器もワンプレートで主菜・副菜が混ざってしまうので、よりよい方法の検討を望みます。

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	Ⓐ・b・c
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	Ⓐ・b・c
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・Ⓑ・c

特記事項

<p>0・1歳児は毎日の家庭とのやり取りは連絡帳を活用しています。2歳児は必要に応じて連絡帳を記入しています。保育園便り、親子でのあそぼう会、個人懇談、保育参観、園長による講演会など家庭との連携を図る活動は多岐にわたっています。懇談時に保護者にアンケートを書いてもらい、その内容を保護者懇談ノートに記録するなど努力していますが、当評価機関が実施した保護者アンケートでは「3歳児以上児も連絡帳を実施してほしい」等の要望があったので、園としての連絡方法を保護者に理解してもらう工夫を望みます。</p> <p>登降園時はできるだけ管理者も事務室から出て、保護者とコミュニケーションを取りやすいよう配慮し、相談スペースなどもあります。保護者にその仕組みを周知していくことが保護者の安心感を高め、家庭との連携がより緊密になることで、虐待予防にも繋がります。</p> <p>現在は心配な事案は無いようですが、市や保健所との連携で職員研修等も実施し、なお一層、不適切な対応なども未然に防ぐ専門職としてのスキルアップへの努力を望みます。</p>
--

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・Ⓑ・c

特記事項

<p>職員の自己評価の取り組みは、その内容を報告し、園内研修に位置付けるなど努力しています。</p> <p>保育士が保育実践の振り返りを行う点では行事など実施後の行事改善考察シート等に改善点や次への取り組みの課題が記載されていますが、日誌・月案などの記述内容では見受けられませんでした。保育計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価、自己評価個人結果など多様な視点からの評価記録なども活かし、職員が主体的に日々の具体的な保育実践の振り返りを充実し、いっそう専門性の向上につながることを期待します。</p>
--